

# これからの歯科医学教育に必要な医療コミュニケーション教育とは

## What kind of medical communication education is necessary in dental education from now on?

鈴木一吉<sup>1)</sup>

Kazuyoshi Suzuki<sup>1)</sup>

1) 愛知学院大学短期大学部 歯科衛生学科

1) Department of Dental Hygiene, Aichi Gakuin University, Junior College

### Abstract

In dental education in Japan, education on initial medical interviews for dental visits is being conducted at dental schools nationwide. However, education on medical communication beyond the initial visit is not being carried out sufficiently. Therefore, classes were conducted on the procedures and content of medical interviews during follow-up visits. The course content and student reflection papers were analyzed. The student reflection papers revealed an understanding of the importance of a patient's perspective and effective communication. These learning experiences for students seem to have been obtained through activities such as video watching, role-playing, and demonstrations. The ability to build a good relationship with patients is essential for healthcare professionals. Medical communication is closely related to this. Medical communication education can encompass various clinical scenarios. In dental education, it is necessary to expand the focus of medical communication education to include follow-up visits and explanation scenarios in the future. This will allow students to feel more connected to clinical settings where patients are present. Consequently, students will have more opportunities to learn from a patient-centered perspective in healthcare.

### 要旨

歯科医学教育において、初診患者の医療面接に関わる医療コミュニケーション教育は共用試験 OSCE 実施をきっかけに、全国の歯学部・歯科大学で実施されるようになった。一方、初診以外の医療コミュニケーション教育の普及は十分とはいえない。つまり、初診時以外の再診時の医療面接に関わる教育の充実が必要である。そこで、治療方針の説明や治療前後の説明など、再診時の医療面接に関わる進め方や内容についての授業を行った。学生の感想文からは、患者視点やコミュニケーションの重要性を理解した様子が伺えた。これらの学びは講義だけでなく、動画視聴、ロールプレイ、デモンストレーションなどを活用した学習から得られたものと思われる。患者と良好な関係を築く能力は医療者に必須であり、医療コミュニケーションはこれに密接に関わる。医療コミュニケーション教育は臨床の様々な場面の想定が可能である。歯科医学教育において医療コミュニケーション教育の対象場면을再診時や説明場面に拡充していくことは、学生にとって、患者の存在する臨床をより身近に感じ、そして、患者中心の医療の視点を学ぶことができる学習機会が増えることになる。

キーワード：歯科医学教育、医療コミュニケーション、医療面接、再診、治療前と治療後の説明

Keywords: dental education, medical communication, medical interview, follow-up visit, explanation before and after treatment

### 1. 序文

歯科医学教育において「今日はどうされましたか?」と尋ね、主訴の情報収集を進める「初診患者の医療面接」の教育は、2005年から正式実施された臨床実習前に行われる共用試験歯学系 OSCE の課題になったことをきっかけに、全国の歯学部に広まった。2023年2月出版の歯科医学教育白書 2021年版<sup>1)</sup>では、全ての歯学部で医療コミュニケーション教育が行われていると報告されている。

2021年9月の公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) の共用試験歯学系 OSCE の効果等に関する

る調査報告書<sup>2)</sup>では、臨床実習で患者に接するうえで問題が生じた、あるいは、能力不足が判明した学生がいると報告されている。具体的にはコミュニケーションがとれない、無神経な接遇、患者への気配りの欠如が問題点として挙げられており、初診患者の医療面接以外の医療コミュニケーション教育が必要であることをうかがわせる。2022 年 11 月改訂の歯学教育モデル・コア・カリキュラム 令和 4 年度改訂版<sup>3)</sup>では、歯科医師として求められる基本的な資質・能力の章にコミュニケーション能力が項目立てされ、患者との良好なコミュニケーションを行う能力の修得が求められている。2023 年 3 月 CATO 発行の歯学生診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目<sup>4)</sup>では、初診患者に加えて再診患者の医療面接が新たに加わった。このように、医療コミュニケーション教育は、初診患者の医療面接以外の内容の教育も求められてきている。医療コミュニケーションは医療者と患者との関係性の中で成り立つ。つまり、医療コミュニケーションは患者中心の医療やナラティブ・ベースド・メディシン (NBM: Narrative Based Medicine) にも密接に関わっており、教育においては、患者の視点に歯科医師が立つ大切さを学ぶことは欠かせない。

そこで、本稿では、初診患者の医療面接以外の医療コミュニケーションに関する実際の授業例を紹介し、受講学生の感想もふまえて歯科医学教育における医療コミュニケーション教育について考察する。

なお、掲載しているプロダクト、感想文、写真は、口頭あるいは文書で説明後、使用の同意を得ている。

## 2. 全国の歯学部・歯科大学の臨床実習前の医療コミュニケーションの教育内容の現状

歯科治療に関わる医療コミュニケーション場面を図 1 に示す。歯科治療は初診時はもちろん説明やインフォームド・コンセント、再診時もコミュニケーションの場面がある。

歯科医学教育白書 2021 年版 (2018~2021 年)<sup>1)</sup>によると、全国に 29 校ある歯学部・歯科大学に医療コミュニケーションに関わる項目について臨床実習開始までに教育を行っているかを調査したところ、「初診時の医療面接」はほぼ全ての大学で実施されていることが分かった。一方、初診時以外の医療コミュニケーションについては、教育を行っていない教育機関があった (図 2)。

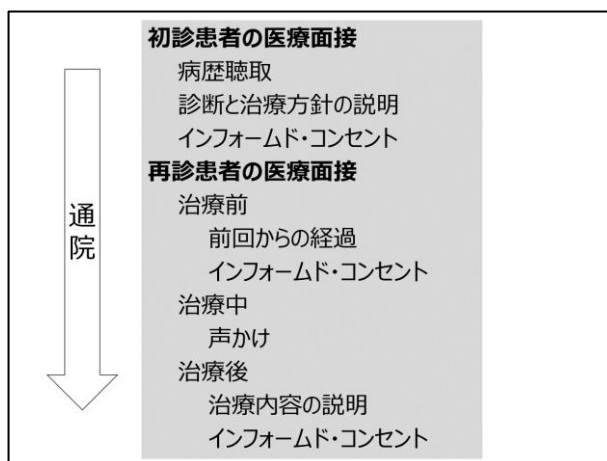


図 1: 歯科治療に関わる医療コミュニケーション場面

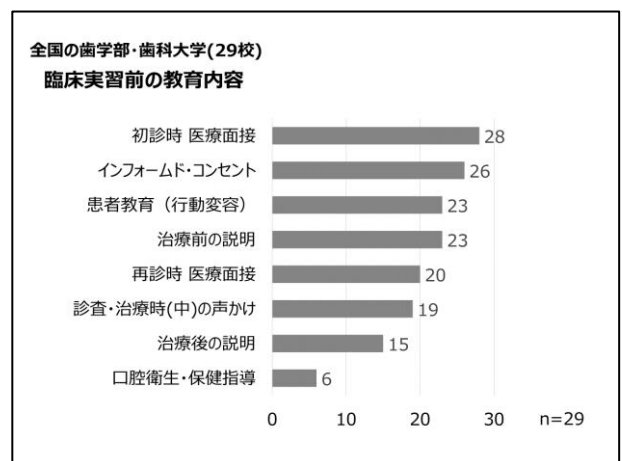


図 2: 臨床実習前の医療コミュニケーション教育 (歯科医学教育白書 2021 年版 (2018~2021) 日本歯科医学教育学会)

## 3. 授業の紹介

「授業例 1: 治療方針の説明」「授業例 2: 再診時の医療面接・治療前の説明」「授業例 3: 治療後の説明」の 3 つの授業について以下に記す。この 3 つの授業はいずれも講義以外の方法も取り入れている。

### 1) 授業例 1: 治療方針の説明 (動画視聴・グループ内意見交換)

#### (1) 対象 (例)

歯学部 3 年生 (約 30 名)

#### (2) 授業のねらい

治療方針の説明場면을題材に患者の語りを通して、患者中心の医療、ナラティブ・ベースド・メディスン (NBM : Narrative Based Medicine) の視点を学ぶ

### (3) 授業の流れ

動画視聴を行い個人作業、グループ内意見交換、全体発表を行う。

### (4) タイムスケジュール (90 分間)

- ① 作業解説
- ② 動画 1 視聴 (図 3)、トランスクリプト (図 4) 事前配付
- ③ 個人作業 1
- ④ グループ内意見交換 1
- ⑤ 全体発表 1
- ⑥ 動画 2 視聴 (図 5)、トランスクリプト (図 6) 事前配付
- ⑦ 個人作業 2
- ⑧ グループ内意見交換 2
- ⑨ 全体発表 2
- ⑩ 個人作業 3
- ⑪ グループ内意見交換 3
- ⑫ 全体発表 3
- ⑬ 動画 3 視聴 (図 7)
- ⑭ 振り返り
- ⑮ まとめのレクチャー
- ⑯ アンケート (感想)



図 3 : 抜歯の治療方針を説明する場面

1	歯科医師	「レントゲンできてきました」
2	患者	「はい」
3	歯科医師	「今日、この歯ですね」
4	患者	「はい」
5	歯科医師	「ま、これ抜いて」
6	患者	「はい」
7	歯科医師	「入れ歯が何かにしたほうがいいと思います」
8	患者	「えっ入れ歯？」
9	患者	「え？そんなに悪いんですか？」
10	歯科医師	「ええ、まあ、ただ、抜いたあとは、入れ歯だったり、ブリッジだったり、インプラントだったり、何かで補うことができるので、大丈夫ですよ。入れ歯はご存じですか？」
11	患者	「えーと、あのなんか、金具が付いている」
12	歯科医師	「松本さん、入れ歯は嫌ですか？」
13	患者	「えーっと、入れ歯は、うーん、嫌ではないんですけど」
14	歯科医師	「まずは歯を抜きましょうか？こちらの同意書にサインいただいでよろしいでしょうか？」
15	患者	「えーでもちょっとやっぱり」
16	歯科医師	「なににするかは抜いた後に決めてもらっていいですよ」
17	患者	「えーでも、えー先生入れ歯ですか？」
18	歯科医師	「入れ歯でもいいし、ブリッジでもいいですよ」
19	患者	「ブリッジ…」

図 4 : 動画 1 のトランスクリプト



図 5 : 動画 1 の説明を受けてからの患者の感想の場面

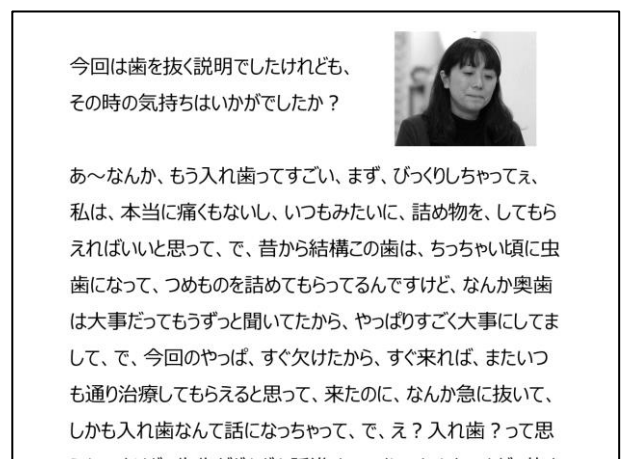


図 6 : 動画 2 のトランスクリプト (抜粋)



図 7：患者と良好な関係を築きながら治療方針が決まる場面

#### (5) 動画の内容

場面設定：歯の具合が悪くて歯科医院を訪れた初診患者と歯科医師の会話。検査結果と治療方針の説明の場面

- ・動画は下記①②③の 3 種類があり、最初に見る動画 1 は患者と歯科医師の良好な関係が構築されない場面、2 つ目の動画 2 は患者の語りの場面、3 つ目の動画 3 は患者と歯科医師の良好な関係が構築される場面

##### ①動画 1 (図 3、4)

歯科医師が患者に治療方針を説明している動画 (患者は歯科医師の治療方針にあまり納得していない事例)

##### ②動画 2 (図 5、6)

動画 1 の場面を患者に振り返ってもらうインタビュー形式の動画

##### ③動画 3 (図 7)

動画 1 と同じ症例で歯科医師が患者に診断と治療方針を説明している動画 (患者と歯科医師の双方が納得する治療方針に落ち着く事例)

#### (6) 学習課題

##### ・個人作業 1、グループ内意見交換 1、全体発表 1

動画 1 を視聴して歯科医師の発言などの振る舞いで気になったところ (改善が必要な点) を抽出し、気になった理由と改善策を考える。まず、個人で考え、グループ内で意見交換を行い、全体発表を行う。全体発表では、グループで出た全ての意見を発表する (グループ内で意見の集約は行わないようにする)。

##### ・個人作業 2、グループ内意見交換 2、全体発表 2

動画 2 を視聴して患者のコメントで気になったところを抽出しその理由も明記する。まず、個人で抽出し、グループで意見交換を行い、全体発表を行う。全体発表では、グループで出た全ての意見を発表する (グループ内で意見の集約は行わないようにする)。

##### ・個人作業 3、グループ内意見交換 3、全体発表 3

個人作業 2、グループ内意見交換 2、全体発表 2 の結果をふまえて、あらためて動画 1 の歯科医師の振る舞いで改善が必要な点と改善策を考える。まず、個人で考え、グループ内で意見交換を行い、全体発表を行う。全体発表では、グループで出た全ての意見を発表する (グループ内で意見の集約は行わないようにする)。

##### ・振り返り、まとめのレクチャー

患者と歯科医師が良好な関係の構築ができる動画 3 を視聴し、グループの意見や全体発表での意見を教室全体で振り返る。

#### (7) まとめレクチャーの内容

患者への説明に関わるコミュニケーション<sup>5,6)</sup> についてレクチャーを行う (図 8)。

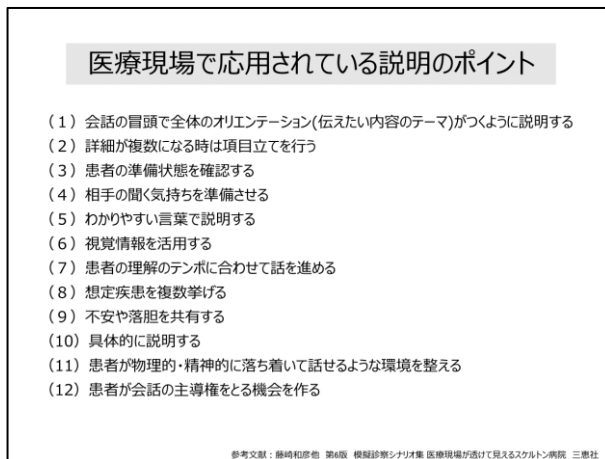


図 8 まとめのレクチャーで使用するスライド (抜粋)

## (8) 学生の感想

以下に授業終了時の学生の感想を抜粋 (一部文言修正) して記載する。

- ・ 治療を強引に進めず、患者の気持ちに寄り添って説明することの大切さを感じた
- ・ 医療コミュニケーションは普通のコミュニケーションとは異なるもので、学ぶ必要があると感じた
- ・ 患者の気持ちを考え、信頼を築くことが大事だと認識した
- ・ 医療者としてのコミュニケーションが治療の手技と同様に重要であることに驚きを感じた
- ・ 話し方や傾聴の重要性について学び、患者への声かけが患者の治療に対する気持ちに影響することに気づいた
- ・ 伝え方一つで患者の印象が大きく変わることに気づいた
- ・ 話し方や用語の選択が患者に与える印象に大きな影響があることを学んだ
- ・ 医療者の発言が患者にどのような印象を与えるかを考慮する必要があることを理解した
- ・ 医療者と患者のコミュニケーションは相互であり、一方通行ではないことを意識する必要があると感じた
- ・ 患者の立場や心理状態に合わせたコミュニケーションが非常に重要であると認識した

## 2) 授業例 2 : 再診時の医療面接・治療前の説明 (ロールプレイ)

### (1) 対象

歯学部 5 年生 (臨床実習前) (約 30 名)

### (2) 授業のねらい

患者中心の医療を実践するために必要な再診時の医療面接における進め方と情報収集・説明の方法を学ぶ

### (3) 授業の流れ

まず、ロールプレイの前に、再診時の医療面接と治療前の説明場面の評価マニュアルを作成する。その後、学生は、歯科医師、患者、評価者の 3 つの役割に分かれてロールプレイを行い、評価者役は作成した評価シート・マニュアルをもとに歯科医師役の医療コミュニケーションを評価する。ロールプレイ後、お互いにフィードバックを行う。また、授業開始時と終了時には、同じ内容の小テストを実施し理解度を確認する。

### (4) タイムスケジュール (90 分間)

- ① プレテスト
- ② レクチャー 1
- ③ 作業解説
- ④ グループ討論
- ⑤ 全体討論
- ⑥ レクチャー 2
- ⑦ ロールプレイ
- ⑧ ポストテスト
- ⑨ アンケート (感想)

### (5) 配付資料

「再診時の医療面接 治療前 (課題シート)」(図 9) と「再診時の医療面接 治療前 (評価シート)」(図 10)、「再診時の医療面接 治療前 評価マニュアル (学生小グループ討論用)」(図 11) の 3 種類をあらかじめ全員に配付する。また、患者情報として診療録 (カルテ)、口腔内写真、エックス線写真を配付する。

**再診時の医療面接 治療前 (課題シート)**

外来の再診患者(前回上顎の小臼歯の抜髄処置を行った)として医療面接を行ってください。(5分間)

- (1) 患者名：○○○ ○○歳
- (2) 患者は前回初診で初診担当医 (自分以外) に診察を受けて、その1週間後が今日です。あなたは患者の担当医として初めて診察を行います。
- (3) 初めに前回までのカルテを先に見ておいてください。前回までの治療内容と今日の治療予定が書かれています。
- (4) 待合室から患者を呼び入れるところから始めてください。
- (5) 評価の対象は、情報収集、患者への説明指示内容、そして、良好な患者歯科医師関係の構築です。
- (6) 「それではお口の中を拝見いたします。背中を倒します」で終了してください。

図 9：再診時の医療面接 治療前 (課題シート)

**再診時の医療面接 治療前 (評価シート)**

	できた	できなかった
① 挨拶	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 本人確認と自己紹介	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 前回からの病状 (状態) の経過確認 (服薬も含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 治療中の歯の現在の自覚症状	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 本で行う予定の治療内容の説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 体調の確認	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 治療の同意	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 治療の希望の確認 (本日治療予定以外も含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 質問を受け付ける	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 支持と共感、判断、評価、考察などを行う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 治療中の注意事項の伝達	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 治療中の指示の伝達	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 全体を通してわかりやすく丁寧な言葉遣いで進める	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

図 10：再診時の医療面接 治療前 (評価シート)

**再診時の医療面接 治療前 評価マニュアル  
(学生小グループ討論用)**

⑧治療の希望の確認 (本日治療予定以外も含む)

- ・ (上記のに続けて) 予定している歯科治療に対する希望や、予定以外の治療希望があるか確認した
- 例「オ [ ] 」など

⑨質問を受け付ける

- 例「今日の治療内容で、何か質問 (あるいは不安) はございますか? 」など

⑩支持と共感、判断、評価、考察などを行う

- ・患者の訴えた感情 (喜び、不安や苦痛) などに対して支持や共感などの対応を行った
- 例 患者「おかげさまで痛みが取れました。ありがとうございます」に対して↓
- 医師「カ [ ] 」など
- ・患者の病状の訴えに対して疾患や状態に関する考察を行った
- 例 患者「2日ぐらい痛かったのですが (心配そうな感じで) 」に対して↓
- 医師「ナ [ ] 」など

図 11：再診時の医療面接 治療前 評価マニュアル (学生小グループ討論用) (抜粋)  
灰色の網かけ部分のセリフを学生は考える。

### (6) 学習課題

配付資料 (図 9、10、11) をもとに、グループ討論を行い再診時の医療面接で実施する各項目の質問の具体的なセリフ (文言) を作成し (図 11)、全体討論で完成を目指す。全体討論後、不足や修正が必要な場合は教員が補足説明を行う。また、ロールプレイでは再診時の医療コミュニケーションを体験する。

### (7) ロールプレイの設定

- ・ 場面は 1 週間前に歯が痛くて治療を受けた患者が、その治療の続きで来院した時の治療前の患者と歯科医師のやりとり。患者を待合室から治療室に呼び入れるところから始める。
- ・ 異なる患者の性格や症状などの情報が記載されたプレート (図 12) を事前に用意し、3 人一組のロールプレイで異なる患者を演じることができるようにする。患者役のプレートの情報はロールプレイが終わるまでは患者役となった自分以外の学生には見せないようにする。

<p><b>患者 A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ちょっと心配性な患者</li> <li>• 痛みがなくなったのでとりあえず喜んでいる</li> <li>• 前回麻酔が切れてから2日ぐらい食事の時に痛かったので病気が進行したかと不安</li> <li>• 前回治療後、口の中が消毒臭かったので心配</li> <li>• 仮の詰めもの（仮封）がすり減ったのでばい菌が入ってしまったのではと不安</li> <li>• 必ず行う質問 「2日間痛かったのは神経がとれていないんじゃないですか？」</li> </ul>	<p><b>患者 B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 欲張りな患者、わがまま</li> <li>• 痛みがなくなったのでとりあえず喜んでいる</li> <li>• 大きさに感謝している</li> <li>• 前回の治療であつという間に痛みが取れたので、今日は歯石を取ってほしい。虫歯の治療の続きは後回しでよいと思っている</li> <li>• 必ず行う質問 「他にも気になるところがあるのでそっちの治療を優先できないでしょうか？」</li> </ul>
---	---

図 12：患者役のプレート

(8) レクチャーの内容

レクチャー1

- 再診時の医療面接と治療前の説明の目的と概要

レクチャー2

- 治療前の説明の進め方と内容

(9) プレ・ポストテストの内容

再診時の医療面接（治療前）で行う内容を列挙する。

(10) プレ・ポストテストの結果の例

同じ学生が書いた実際のプレ・ポストテストを示す（図 13、14）。プレテストは、全体的な印象として事務的なやりとりで終始していたが（図 13）、ポストテストでは、患者の立場に立った問いかけが加わっている（図 14）。

設問：再診時の医療面接(治療前)で行う内容を列挙してください。

**プレテスト ●●さん**

①挨拶	⑩ 治療内容の同意
② 自己紹介	⑪ 何かお話ししたい点かを聞く。
③ 前回の治療内容の確認	⑫
④ 今日の治療予定の説明	⑬
⑤ 1週間以内に何か変化があったか	⑭
⑥ 患者の治療内容の希望を聞く	⑮
⑦ 患者さんが来れない日、曜日、時間	⑯
⑧ 口の中を見る前にいっかの質問をしてよびを聞く	⑰
⑨ それではお口の中を見たいします。背中を倒します。	⑱

事務的  
冷たい感じ

図 13 プレテスト (例)

設問：再診時の医療面接(治療前)で行う内容を列挙してください。

**ポストテスト ●●さん**

①挨拶	⑩ 治療内容についての希望を聞く
② 本人確認と自己紹介	⑪ 何か質問はありますか
③ 前回の治療内容の確認	⑫ 患者が訴える症状に対する理解
④ 前回の治療後から1週間の症状の変化	⑬ 共感 あいづら
⑤ 現在治療中の歯に痛みはあるか	⑭ 今日の治療中に痛みが出ても大丈夫
⑥ 今日の治療内容	⑮ もし痛みが出たら圧力をかけて下さい
⑦ もし症状がよくなる、または別の治療が必要になったら	⑯
⑧ 今日の治療の承諾	⑰

協力、支援、気遣い  
気づけり

コミュニケーションになった

図 14 ポストテスト (例)

3) 授業例 3：治療後の説明（デモンストレーション）

(1) 対象

歯学部 5 年生（臨床実習前）（約 30 名）

(2) 授業のねらい

患者中心の医療を実践するために必要な治療後の説明の方法を学ぶ。

(3) 授業の流れ

教員が歯科医師役と患者役となり教室の前でデモンストレーションを行い、学生はこの様子をあらかじめ配付された治療後の説明の評価シート (図 15) と評価マニュアル (図 16) を使って教員が演じる歯科医師役を評価する。

#### (4) タイムスケジュール (90 分間)

- ① プレテスト
- ② レクチャー1
- ③ 作業解説
- ④ 自己学習
- ⑤ デモンストレーション
- ⑥ 個人作業
- ⑦ グループ討論
- ⑧ 全体発表
- ⑨ レクチャー2
- ⑩ ポストテスト
- ⑪ アンケート (感想)

#### (5) 配付資料

「治療後の説明」の評価シート (図 15) と評価マニュアル (抜粋) (図 16)

治療後の説明 (評価シート)		できた	できなかった
① 治療終了を告げる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 労をねぎらう		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 今、痛みなど異常がないかを確認する		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 口をゆすぐように指示をする		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 本で行った治療内容の説明を行う		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 治療後の注意事項 (あるいは禁止事項) を告げる		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 処方についての説明と指示を行う		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 次回まで起こる可能性のある事項を伝える		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ (上記⑧に関連して) 何かあった時の対処法について伝える		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 次回予定を説明する		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 質問を受け付ける		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 全体を通してわかりやすく丁寧な言葉遣いで進める		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

図 15 : 治療後の説明 (評価シート)

治療後の説明 評価マニュアル (デモンストレーション評価用)	
① 治療終了を告げる	・今日の治療が終わったことを告げる 例「今日の治療はここまでです」
② 労をねぎらう	・長時間頑張った患者の労をねぎらう 例「お疲れさまでした」
③ 今、痛みなど異常がないかを確認する	例「今、痛みなど、何か気になることはありますか？」
④ 口をゆすぐように指示をする	・口をゆすぐように伝える ・麻酔でしびれているので気をつけるように伝える 例「麻酔でしびれていますが、そっとゆすいでください」
⑤ 本で行った治療内容の説明を行う	

図 16 : 治療後の説明 (評価マニュアル) (抜粋)

#### (6) 学習課題

自己学習ではデモンストレーションの評価を行うために、配付資料の治療後の説明の評価シート (図 15) と評価マニュアル (図 16) を熟読する。その後、この評価シートと評価マニュアルを使ってデモンストレーションの評価を行う。さらに、個人作業とグループ討論でデモンストレーションの内容でよかった点と改善点を挙げ、改善案を考え全体発表を行う。

#### (7) レクチャーの内容

##### レクチャー1

- ・ 歯科治療時のコミュニケーションの特徴
- ・ 治療後の説明の目的、進め方と内容
- ・ 歯科の治療・材料・薬剤を分かりやすく説明する方法

##### レクチャー2

- ・ 患者からの質問と答え方のポイント

#### (8) デモンストレーションの内容

歯の治療が終了し、治療内容の説明やこれからの指示など、待合室へ案内するところまでの場面を、教員が歯科医師役と患者役となって、あらかじめ用意した台本をもとに演技を行う (図 17、18)。



図 17：教員が行うデモンストレーション

治療後の説明 教員デモ用台本 (例)	
歯科医師	「お疲れさまでした。今日の治療はここまでです」(治療終了告知)
	「椅子を起しますね。お口をゆすいでください」(洗口指示)
	(チェアが終了ポジションへ動く)
歯科医師	「麻酔でしびれているので、そとゆすいでくださいね」(気遣い)
	(患者、口をゆすぎ終わる)
	(歯科医師、患者の斜め前に移動する)
	(患者、右手で治療した側のほっぺたをそと押さえる)
歯科医師	「今、痛みなど何か変わったことはありませんか？」(治療後の確認)
患者	「いいえ、特にありません」
歯科医師	「そうですか」
	「今日の治療内容の説明をしますね」(治療の説明の前置き)
患者	「はい」
歯科医師	「今日は、局所麻酔をして、歯の中の古い歯の入っていた神経をとります」

図 18：デモンストレーションの台本 (抜粋)

### (9) プレ・ポストテストの内容

治療後の説明で行う内容を列挙する。

## 4. 授業例 2 (再診時の医療面接・治療前の説明)、授業例 3 (治療後の説明) の学生の感想

以下に授業終了時の学生の感想を抜粋して記載する。

(授業例 2、3 をまとめて 180 分間で実施したときのもの)

- ・医療面接の手順が理解できた
- ・再診時と初診時での具体的な質問事項の違いがよくわかった
- ・初診と再診、治療後の医療面接の違いが分かった
- ・治療後の患者説明についてよく理解できた
- ・治療前後で患者に注意してもらった事項がわかった
- ・治療前に行うことや、患者への接し方、痛みや不快感のある患者への配慮がよくわかった
- ・患者のタイプは様々で、それに対応していく必要があることが理解できた
- ・さまざまな種類の患者の対応を学ぶことができた
- ・患者の性格がひとりひとり違うので臨機応変に対応できるようにしなければ臨床では何もできないことがわかった
- ・それぞれの症例の患者に対して個別に対応して行く必要があるとわかった
- ・言葉一つで伝わり方が変わることがわかった
- ・習ったことを暗記するという形にすると、アドリブで質問された時に困るのもっと知識を増やさなければいけないと思った

## 5. 考察

授業のアンケートから、今回紹介した授業は、学生が再診時の医療面接や治療前後の説明において必要な医療コミュニケーションの手順や内容の理解ができたことはもちろん、本授業の体験は学生にとって患者の存在する臨床現場のイメージを膨らませる一助になったと思われる。また、学生は患者の立場や心理的状況に寄り添って説明することの重要性、話し方や用語の選択が患者へ与える印象に影響を及ぼすこと、医療者と患者のコミュニケーションは相互であり一方通行ではないこと、そして、患者の多様性をふまえて個別に対応する必要性を認識できたと言える。このような患者の視点の学びは講義形式だけではなく、今回紹介した授業の方法である動画視聴やグループ内意見交換、ロールプレイ、デモンストレーションなどを活用した学びの成果と考える。学生は患者の視点を理解することが医療における信頼関係構築において不可欠であることを実感できたと思われる。講義以外の学習方法の活用は臨床実習前の医療コミュニケーション教育プログラムとして、学生の次への学びを促進させる一つの有用な手段であるといえる。

ただし、より効果的にするためには、今回紹介したような限られた時間での 1 回限りの授業ではなく、さらなる充実、そして、学習の段階、つまり、学習者の学習の経験に応じた継続的な教育が必要かもしれない。具体的に

は、個々の学生へのフィードバックの質と頻度の向上、講義以外の学習方法の機会の拡充、例えば模擬患者の活用<sup>7,8)</sup>、そして臨床現場での実践などである。特定のケースに頼らず、多様なケーススタディを提供することができれば、より効果的な結果が期待できるかもしれない。

## 6. まとめ

患者と良好な関係を築き、そして、良好な関係性を継続していく能力は医療者に必須であり、医療コミュニケーションはこれに密接に関わる<sup>9,10,11)</sup>。医療コミュニケーション教育は臨床の様々な場面の想定が可能である。言い換えれば、初診から再診、通院終了までのすべての場面に患者は直接または間接的に存在し、その全てが医療コミュニケーション教育の対象場面である。つまり、医療コミュニケーション教育はあらゆる臨床場面の臨場感を感じることができる。歯科医学教育において初診時の医療面接の教育の普及が進んだ今、今後は医療コミュニケーション教育の対象場面を再診時や説明場面に拡充していくことは、学生にとって、患者の存在する臨床をより身近に感じながら患者中心の医療の視点を学ぶことができる学習機会が増えることになる。その結果、医療のプロフェッショナルとしての患者の視点への洞察力やコミュニケーションスキルの向上が期待され、学生が、将来の歯科医療において真に価値ある医療者の一翼を担うことが期待される。

## 謝辞

本論文で紹介した動画制作にご協力いただいた川上ちひろ先生、早川佳穂先生、今福輪太郎先生、恒川幸司先生、藤崎和彦先生をはじめご出演いただいた方々に心より感謝申し上げます。

## 研究資金

本稿の内容は、JSPS 基盤研究(C)26463199 の助成を受けた研究成果の内容を含む。

## 利益相反自己申告

本論文に関して、申告すべき利益相反はない。

## 引用文献

1. 鈴木一吉 特色ある教育・学修法 5.医療コミュニケーション教育 歯科医学教育白書 2021 年版 (2018~2021 年) 121-124 項 一般社団法人 日本歯科医学教育学会 2023 年 2 月
2. 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) 共用試験歯学系 OSCE の効果等に関する調査報告書 2021 年 9 月
3. 歯学教育モデル・コア・カリキュラム 令和 4 年度改訂版 2022 年 11 月
4. 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) 歯学生診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目 (第 1 版) 2023 年 3 月
5. 伊藤孝訓 (編著)・鈴木一吉・廣藤卓雄・森 啓・長谷川篤司 (著) 歯科医療面接アートとサイエンス 第 3 版 砂書房 2020 年 4 月
6. 藤崎和彦・川上ちひろ・加藤智美・高橋優三 (編著) 模擬診察シナリオ集 医療の現場が透けて見えるスケルトン病院 第 6 版 三恵社 2015 年 9 月
7. 鈴木一吉・山口正孝・落合栄樹・松本 享・中村 洋 市民ボランティアによる模擬患者参加型の初診時医療面接実習 日歯教誌 2013、29 (2) : 112-121.
8. 鈴木富雄・阿部恵子 (編) よくわかる医療面接と模擬患者 名古屋大学出版会 2011 年 2 月
9. Veljko Đorđević, Marijana Braš, & Lovorka Brajković.(2012). Person-centered medical interview. Croat Med J. 53(4): 310-313.
10. Peter R. Lichstein (1990). Chapter 3 The Medical Interview. Clinical Methods: The History, Physical, and Laboratory Examinations. 3rd edition. Boston: Butterworths.
11. 伊藤孝訓・寺中敏夫 (編著) 患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際 クインテッセンス出版株式会社 2008 年 6 月

\*責任著者 Corresponding author : 鈴木一吉 (kazukiti@dpc.agu.ac.jp)